



## 四国中央市書道文化醸成事業 夢を共有し、共に泣き笑った14年 鳥取城北高校 山根亮文先生が講演

12月1日、川之江南中学校で昨年の書道パフォーマンス「アーマンズ甲子園」優勝した鳥取城北高校の山根亮文先生による講演会がありました。14年前に書道部を立ち上げて以来「日本」という夢を叶えるため、生徒たちと失敗と成功を繰り返しながら歩み続けたことや、夢を持つことの尊さを伝えてくれました。



## 『夏に咲け 墨の華』書道P甲子園 次回大会のキャッチコピー決定

11月16日、今年7月28日に開催される第17回書道パフォーマンス甲子園の「高校生企画員協議」が、福祉会館でありました。市内3校から名乗りを上げてくれた38人の高校生は、6つの班に分かれてアイデアを出し合い、プレゼンテーションと投票を経て、大会のキャッチコピーを決定しました。



## 「燃やす」から「使う」へ ごみ処理施設再編方針を答申

11月20日、ごみ処理施設整備検討委員会の高橋真委員長（愛媛大学大学院農学研究科教授）が篠原市長に、クリーンセンター焼却施設の再編方針を答申。ごみを燃やさず資源化するため環境への影響が少なく、また地域産業との連携が可能な「トンネルコンポスト方式」が提案されました。



## こども食堂などへ食料支援 国際ソロプチミスト愛媛が寄付

12月4日、国際ソロプチミスト愛媛（井原則子会長）から本市で子ども食料支援を行う団体へ、米150kgや調味料などが贈られました。贈呈式で井原会長は「女性と子供たちの夢を応援できるように、これからも地域のために活動を続けていきたい」と話しました。



## まちの産業を味わい尽くす！ 秋の一大イベントに来場者多数

産業祭  
グリーンフェスタ  
みなとウォーキング

11月18日と19日の2日間、伊予三島運動公園とジャジャウま広場（いずれも中之庄町）で、「産業祭」と「グリーンフェスタ」を市とJAうまが開催。4年ぶりの通常開催に会場は、連日多くの来場者で賑わいました。体育館には、里芋などの農産物や赤石五葉松の盆栽、紙加工品など本市の特産品が勢ぞろい。優秀な作品を作り上げた生産者40人に賞が贈られました。また、恒例の大鍋で煮込んだいもたきには、販売開始とともに長蛇の列。来場者たちも、冬空の下で冷えた体を、特産の「伊予美人」のいもたきで温めていました。そして19日には、金子国際ターミナルで産業祭の関連イベント「みなとウォーキング&RORO船見学」が、金子国際ターミナル協同組合や関係企業などの協力のもと開催。参加者たちは、効率的に貨物を輸送できるRORO船やガントリークレーン、物流倉庫など普段近くで見ることができない施設を歩いて見学しました。会場には、トレーラーの乗車体験や金属探知機体験、救命胴衣の着用体験など「港のお仕事」を体験できるブースを設置。参加者たちは「日本一の紙のまち」を支える港の拠点で、その役割を学びました。



## 一人ひとりを大切に 酒井学（三島）校長に文部科学大臣表彰

11月30日、多年にわたる学校経営や教育行政における功績が評価され、三島東中学校の酒井学校長に、文部科学大臣表彰が贈られました。のべ9年間にわたり、県教育委員会をはじめ対策などに尽力された酒井校長。「人間尊重」の教育活動で、県全体の教育の向上に寄与されました。



## 今後も積極的に活動を続けたい 田中あけみさんに法務大臣表彰

10月23日、多年にわたり人権尊重思想の普及と高揚に努めたことが評価され、人権擁護委員の田中あけみさん（上分町）に、法務大臣表彰が贈られました。11月29日に篠原市長を表敬訪問した田中委員は、「周囲の支えのおかげで続けてこれられた」と、これまでの活動を振り返りました。



## プレアート体験事業 紙で森を作ろう！ 産業と環境を知るワークショップ

12月3日、市役所市民交流棟で行われたワークショップには、70人の親子が参加。ダンボールを再利用して作った木に、色を塗ったり、市内企業から提供された水引などを貼り付けたりして、幹や枝、葉っぱや花などを表現しました。作品は、1月26日まで市民交流棟の1階に展示しています。



## サヌカイトの調べに癒されて 小松玲子さんコンサート

11月19日、ユーホー（土居町入野）で、サヌカイト奏者小松玲子さんによるコンサートがありました。サヌカイトは、香川県産の「讃岐岩」から作られた打楽器で、叩くと高く澄んだ音がします。観客は、サヌカイトの美しい音色とフルートや弦楽器とのアンサンブルに聞き入っていました。



**「えひめ教育の日」推進フェスティバル**  
 ひらけ未来！愛顔かがやくえひめつ子

県では11月を「えひめ教育月間」とし、学校開放や文化祭など地域ぐるみで教育を考える催しをしています。11月12日にユーホールで開催された推進フェスティバルには、県内の教育機関などから約500人が参加。市内の小中高等学校による吹奏楽演奏や書道パフォーマンスが花を添えました。



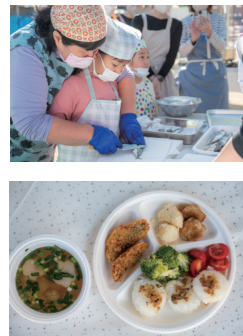
**ステキな住生活のために 不動産フェア開催**

11月12日、金生公民館で四国中央宅建協会と市の共催による「不動産フェア」がありました。整理収納コンサルタント瀧本真奈美さんによるセミナーのほか、空き家・空き地無料相談会やマルシェなど、盛りだくさんの情報に囲まれながら、住環境や暮らし方を楽しく学べるイベントでした。

11月28日、愛媛大学紙産業イノベーションセンター（妻鳥町）の開設10周年を記念するシンポジウムが、ホテルグランフォーレ（三島朝日）でありました。CNFの世界的な権威である東京大学の磯貝明特別教授（写真右下）は、基調講演の中で「二酸化炭素を吸収・固定する森林を有効活用できるCNFは、脱炭素社会に必要な素材である。課題を克服するために日々努力している企業を支援していきたい」と話しました。10年間の活動を報告した内村浩美センター長（写真上）は、「教育においても研究においても、当センターは常に地域の方々に支えられて歩んできた。これからも地域の声を聞きながら10年、20年先を見据えた研究・教育活動を進め、地域の活性化につなげていきたい」と、地元企業などへの感謝の言葉と今後のビジョンを話しました。



「これまででもこれからも地域とともに」  
**愛大イノベーションセンター10周年**



**「ばくばく親子クッキング」**  
 市では「四国中央市の良さを知り、もっと好きになる」をテーマに、さまざまな体験事業をしています。今回は「食育クラブばくばく（石川弘香代表）」の協力により、市内の保育園などで親子クッキングを実施。アジをさばいたり伊予美人の皮をむいたりして調理した、地域の食材をいただきました。



作って食べて  
 地域をもっと好きになろう  
**園児たちが**



**ワークショップ「紙で脱プラ」**  
 代替素材でキレイな海を残そう



ハタラクが交流する  
**コワーキングスペースOPEN!**

本市初のコワーキングスペース「ジョブプロDXステーション」が、川之江町の県紙パルプ工業会館横にオープン！12月9日に内覧会とマルシェが、11日にはIT企業の役員を務めながら、お笑いタレントとしても活躍する厚切りジェイソン氏と宮崎修商工会議所専務によるトークセッションがありました。

12月1日と2日の2日間、川之江ふれあい交流センターでOMN Iプロジェクト（東京大学生産技術研究所）による脱プラスチックアイデアワークショップがありました。市内の企業や高校などから約40人が参加。紙に置き換えられるプラスチック製品を考え、試作品を製作・発表しました。

ちよつとそこまで

## 広報 SAMPO

市内のイルミネーションをちよつとご紹介

**関川☆トゥインクル**  
 (アリーナ土居北側河川敷)  
 1月13日まで

**しこちゅ〜ホールウィンターイルミネーション**  
 (妻鳥町)  
 1月8日まで

**栄町商店街イルミネーション**  
 (川之江町)  
 2月29日まで

祝 紙のまちランキング18年連続日本一

20th ANNIVERSARY

## 18年連続日本一記念 港記念公園(中央)でイルミネーション点灯中!

(1月31日まで)

本市が「紙のまちランキング」で18年連続1位を達成したことを記念し、また、コロナ禍の終息と産業の更なる発展を祈念して、港記念公園(三島中央)の西側芝生内に、お祝いの看板を設置。1月31日までイルミネーションを点灯しています。12月13日には、同公園内で県障害者フライングディスク協会が体験会を実施。光と音で誰もが楽しめる「キラキラディスク」とのコラボが見られました。



**「もっとあたたかい人の世を」**  
 人権のつどいで水平社博物館長が講演



強豪福岡第一高等学校  
**市内バスケットボール部員を指南**

11月26日、河村勇輝選手など日本を代表するバスケットボール選手を数多く輩出している福岡第一高等学校の井手口孝監督らを招いたスキルアップクリニックが、三島東中学校でありました。クリニックには、市内の中高バスケットボール部員100人が参加。地域全体の技術向上が期待されます。

11月26日、ユーホールで四国中央市人権のつどいがあり、人権標語やポスターの展示、人権作文やメッセージコンテストの表彰が行われました。講演をした水平社博物館(奈良県御所市)の駒井忠之館長は「一人ひとりが差別を許さないという意識を持ち行動しなければならぬ」と話されました。